


2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立二島小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	1. 4・5年生（83名） 2. なのはな学級（6名）と3年生（42名） 3. 4年生（45名） 4. 5年生（38名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 教科名（ 体育 総合的な学習の時間 学級活動 ）
4 目標 (ねらい)	1. 国際経験豊かな講師より講演をいただき、外国の人へのおもてなしの心を学ぶことを通じて、対人関係の向上、コミュニケーション能力の向上を図る。 2. 特別支援学級の児童の活動を軸として、障害者スポーツへの理解や児童相互の交流を図る。 3. 肢体不自由や視覚障害のある方の生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。また、障害者スポーツを通して、障害者と健常者が交流することで、障害者に対する理解促進につなげる。 4. アスリートのスポーツに取り組むことを通じた姿勢を学ぶことで、今後の自己の生き方、考え方を意思決定する。
5 取組内容	【1. おもてなし講座 令和元年11月25日（月曜日）】 筑波大学の江上いずみ客員教授をお招きし、人を大切にする心「おもてなしの心」について講演をしていただいた。  講演の様子 プロフェッショナルとしてのこれまでの歩みを基にした江上客員教授のお話は、児童にとってあこがれや感動であり、感想には今後の生き方を意思決定する内容が多くみられた。

【2. 特別支援学級の授業を軸とした障害者スポーツへの理解と交流 令和元年11月】

特別支援学級では、毎年若松区風船バレーボール大会に参加している。このことを軸として、3年生との交流（障害者スポーツの理解や風船バレーボールでの交流）を計画、実施した。



授業の板書



風船バレーボールの様子

3年生での授業は、特別支援学級の担任がT1になりTTの授業を実施した。

【3. 外部人材を活用した障害者の生活や障害者スポーツへの理解 令和元年11月】

障害者支援施設ちづる園の職員の方々をお招きし、車椅子の利用体験やアイマスクを装着した上での歩行の体験を行った。またパラリンピックの競技である「ボッチャ」の体験も行った。



車椅子体験の様子



ボッチャの活動の様子

【4. アスリートの生き方、考え方に学ぶ授業

令和元年9月20日（金曜日）

JFA こころのプロジェクト「夢の教室」の授業が実現した。本校には、元女子プロサッカー選手の後藤 史氏を講師としてお招きした。2時間の授業であった。1時間目は仲間づくりを目的としたゲームを行い、2時間目は後藤氏のサッカーを通じた生き方、考え方の話から学んだ。



仲間づくりゲームの様子



仲間づくりゲームの様子

<p>6 主な成果</p>	<p>○ 外部講師による専門性や魅力に出会わせることで、児童が自己の生き方や考え方を主体的に意思決定することができた。</p> <p>○ 本実践により、児童が自己の発想の幅を拡げ活動することができた。(本市のオリパラマスコットの応募)</p> <div data-bbox="572 253 1023 555" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1051 441 1335 544" data-label="Caption"> <p>児童が作成した マスコットデザイン</p> </div> <p>○ 特別支援学級と3年生とのスポーツを通じた交流が、互いの成長につながった。3年生にとっては障害者スポーツへの理解となり、特別支援学級にとっては若松区風船バレーボール大会に向けた準備や意欲付けとなった。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○ 本校出身でオリンピック、パラリンピックを目指すアスリートの存在の活用を目指した。(全校児童との交流) →実際は「8主な課題」に記述したとおり実現できなかったが、条件さえ整えば、大きな価値のある魅力的な取組であると考え。</p> <p>○ 特別支援学級の児童の育ちのため、交流活動を取り入れて授業を計画、実施した。このことにより、特別支援学級の児童にとっては、運動することの楽しさを、交流した3年生の児童にとっては、パラリンピックへの関心が高まった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>当初、本校出身のアスリートを招聘し、オリンピックやパラリンピックに向けて応援を目的とした交流を考えていたが、選考時期とタイミングが合わず断念した。このことについては、オリパラ事業が児童の育成のためにあるという一方で、アスリートにとってはデリケートな時期であり、そのタイミングを考えることの大切さを実感した。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本年度の事業については、来年度も充実や発展を目指していく。また、課題に挙げた本校出身のアスリートとの交流については、タイミングがよければぜひ実現させたい。シビックプライドのもとになるのは、愛校心「二島プライド」と考えるからである。そして来年度、児童が、いよいよ開催されるオリンピックやパラリンピックにわくわくしながら関わり、その思い出を心に刻んでさらなる成長をしてほしいと願っている。</p>